

第2B(中)分科会 子どもの発達に関する課題

提案主題 「公の場で通用する人」の育成

サブテーマ ～自尊感情を高めるための組織体制と学校運営のための教頭の役割～

協議の柱 ①子どもたちに自治的な力をつけていくために教頭としてどのように校内体制を整えていくか

②学校と地域、家庭とが連携した取組は、教頭としてどう進めればよいか

提言者 中津市立中津中学校 環 昌 典

1 質 疑

(1) Q 分掌会議等を開催するときに工夫していることについて

A 効率よく会議を開催するためのシステムを構築していないと難しい面がある。先生によっては分掌の重複があることや、会議の時間確保のために、分掌会議・教科部会等を同一日に設定して時間差で開催している。

(2) Q P T A交流会の内容や目的について

A 近隣の中津中・豊陽中・城北中のP T A役員が合同で行っている。授業参観や役員との意見交流を行い、自校の活動に生かすことを目的にしている。

2 協 議

(1) 協議の柱①について

学校行事・生徒会活動の取組を「見える化」して掲示し、進捗状況を生徒自身が確認できるよう工夫することで、先を見通した取組ができるのでは。(Bグループ)

学校の生徒会担当や特活担当を中心に、たて割り班での活動を仕組み、提案・評価をすることで上級生に自治活動に対する自覚が生まれる。さらに、小中(高)の連携も視野に入れながら、組織的に取組を進めることも必要である。(D・Fグループ)

(2) 協議の柱②について

C Sは、運営方法や人員の選出など困難な点もあるが、保護者・地域の学校に対する意見をまとめやすくなるので、いかに効果的な運営をするかが重要。(Bグループ)

C S設置に向けて、教頭が主に推進していくことになるので、そのための活動内容や学校行事を見直しながら、校内の組織づくりをする必要がある。(D・Fグループ)

3 指導助言

(1) 学校改革に向けての取組を進めていくには、今の校内組織体制を見直し、マイナス面をプラスに変換する意識・行動を、全職員で共有・共働してこそピンチをチャンスに変える力になる。

(2) 教頭として校長のビジョンを具現化するために、いかに見通しを持つか。そのために、生徒の実態とすり合わせをしながら時と場を見極めて判断する。校長への具申も含めたミドルアップダウンマネジメントに努めてほしい。